

平成30年度「子ども科学体験推進事業」運営委託業務仕様書

1 委託業務名 平成30年度「子ども科学体験推進事業」運営委託業務

2 事業の概要

(1) 目的及び概要

本県は、子どもの科学や技術に関する興味・関心を高めるため、気軽に科学や技術に触れられる機会を提供する「少年少女科学体験スペース0-Labo（以下「0-Labo」とする。）」を開設する。

0-Laboでは、主に小学生を対象とした科学体験講座を実施するとともに、科学や技術に関する常設展示を企画・運営する。また、県内の子どもたちの科学体験の普及・拡大を目的とした「0-Labo出前講座」を実施するとともに、中学生以上を対象とした高度な科学体験活動を提供する「企業・大学等訪問講座」を実施する。さらに、施設の運営や取組、実施状況、県内の子どもの科学体験に対するニーズ等について調査を行う。

(2) 0-Laboの基本方針

- ① 体験活動センターである0-Laboは、より多くの子どもたちに実験や工作等様々な科学体験活動を提供する。
- ② 人材ネットワークセンターである0-Laboは、大学や企業、学校、NPO、団体、ボランティア等と幅広く連携・協働する。
- ③ 情報センターである0-Laboは、科学体験活動の情報を収集するとともに、科学体験活動を広く周知し、児童生徒及び県民への普及啓発を行う。
- ④ 調査センターである0-Laboは、科学体験講座の参加者の感想等について調査し、今後の取組の改善に努める。

(3) 施設について

- ① 名称 少年少女科学体験スペース0-Labo(オーラボ)
- ② 場所 大分市中央町2-8-1 岩尾洋装ビル1F(約70m²)/2F(約70m²)

3 委託契約期間 平成30年4月2日(月)から平成31年3月29日(金)

4 運営の基準

(1) 講座実施期間

- ・平成30年6月23日(土)から平成31年3月3日(日)

(2) 開館時間

- ・10:00から17:00を基本とする。

(3) 休館日

休館日は、下記の日程を基本とする。

- ① 講座実施期間中は、1ヶ月に4日程度、休館日を設定することができる(週1回を基本とする)。
- ② ①の他、平成30年8月13日(月)～同月15日(水)及び平成30年12月29日(土)～平成31年1月3日(木)を休館日とすることができる。また、出前講座や企業・大学等訪問講座実施の際は、県教育委員会の承認を得て休館とすることができる。

③ 休館日は利用者に分かるように、施設における掲示やホームページ等を利用し、周知する。

(4) 科学体験講座の実施日数

① 0-Labo が開催する講座は、以下の4種類とする。

- ・0-Labo で実施する「科学体験講座」 … 45日を標準（6-(3)-①参照）
- ・0-Labo で実施する「サイエンスラボ」 … 18日を標準（6-(3)-②参照）
- ・県内各地で実施する「0-Labo 出前講座」 … 30日を標準（6-(3)-③参照）
- ・企業や大学等を会場として実施する「企業・大学等訪問講座」 … 7日を標準
（6-(3)-④参照）

② 講座内容は、分野、形式、依頼する講師・団体等のバランスに配慮して選定する。ただし、ICTを活用した講座を年間10回以上実施する。

③ 科学体験の普及・拡大の面から、新たな講師は優先的に選定する。

④ 台風の接近や積雪等、予め施設の開館及び講座の実施が困難であると判断できる場合は、県教育委員会と協議の上、前日の午前中までに中止の判断を行う。なお、前日が休日の場合は、直前の平日の午前中までに中止の判断を行う。また、その他の場合にも、受託者が特に運営上必要と認める場合は、県教育委員会の承認を得て計画した講座日を変更することができる。

(5) 個人情報の扱い

業務の遂行にあたって、個人情報を取り扱う場合は、その取り扱いに十分留意し、漏えい、滅失及び棄損の防止その他の個人情報の適切な管理に努め、個人情報を保護するために必要な措置を講じる。

(6) 文書の管理・保存

受託者が委託業務に伴い作成し、又は受領する文書等は、県の文書事務に関する諸規定に準じて適正に管理・保存する。

(7) 守秘義務

受託者は、業務を遂行するにあたり、業務上知り得た内容を第三者に漏らしたり、自己の利益のために使用したりしないこと。なお業務委託期間が終了しても同様とする。

(8) 再委託の禁止等

① 受託者は、業務の全部を一括して又は主たる部分を第三者に委任し、又は請け負わせてはならない。ただし、第三者への委任が業務の一部であり、委託者の承認を得たときはこの限りでない。

② 前項の「主たる部分」とは、業務における総合的企画、業務遂行管理、手法の決定、技術的判断等該当業務に係る基本的な又は中心的なものに位置づけられる業務をいうものとする。

③ 受託者は、業務の一部（「主たる部分」を除く。）を第三者に委任し、又は請け負わせようとするときは（以下「再委託」という。）は、あらかじめ再委託の相手方の住所、氏名、再委託を行う業務の範囲を、再委託の必要性及び契約金額について記載した再委託（変更）承諾申請書を委託者に提出し、承認を得なければならない。

なお、再委託の内容を変更しようとするときも同様である。

④ 前項の規定は、受託者がコピー、ワープロ、印刷、製本、トレース、資料整理、計算処理、模型製作、翻訳、購入、消耗品購入、会場借上等の軽微な業務を再委託しようとするときは、適用しない。

- ⑤ 第③項のなお書きの規定は、軽微な変更該当するときには、適用しない。
- ⑥ 受託者が委託業務の一部を第三者に委託する場合において、これに伴う第三者の行為については、その責任を受託者が負うものとする。

5 組織及び安全管理体制

(1) 業務統括責任者について

受託者は、業務に関して統括的に責任を負う者を1名配置するとともに、その職務代理者を定める。

(2) 職員の配置について

職員の配置は、下記を基本とする。

- ① 常勤職員1名程度
- ② 臨時職員3名程度

(3) 組織図及び緊急連絡網の作成について

- ・ 業務等が一覧できる組織図及び緊急連絡網を作成し、県教育委員会に提出する。

(4) 安全管理について

① 施設内の安全管理について

- ・ 各講座の実施では、安全に実験や観察等が行えるよう、適切に人員を手配する。
- ・ 施設の都合上、危険な薬品や大きな炎を使う実験等は実施できないことを留意する。

② 保険加入手続き

- ・ 事故等を想定し、実験や工作等体験活動の参加者及び指導者を対象に賠償責任保険及び傷害保険の加入手続きを行う。

③ 保安警備業務

- ・ 防犯、防火及び防災に万全を期し、機械警備等を活用して保安警備業務を実施する。なお、トラブル等が発生した場合は、迅速かつ適切に処理し、その内容及び処理状況を県教育委員会に速やかに報告する。

④ その他

- ・ 万が一の事故等発生時の対応と日常的な管理運営について、安全管理マニュアルや連絡体制を整備すること。なお、安全管理マニュアルは、県教育委員会と協議の上作成する。
- ・ 安全管理マニュアルに基づいて定期的に安全点検を行う。
- ・ 清掃や備品、施設設備等の点検の実施状況について月毎に記録する。

6 委託業務内容

受託者は、平成30年度「子ども科学体験推進事業」の目的や0-Laboの基本方針等に基づいて、下記の業務を行う。

(1) 施設管理業務

① 電話・電気・インターネット（固定電話及びFAX含む）等の管理及び費用負担

② 基本備品整備・管理

- ・ 備品の点検、保守管理、備品修理
- ・ 備品台帳（品名、品番、金額（単価）、数量、管理場所、購入年月日等を記載）の整備。

※備品とは、比較的長期間にわたって、その性質、形状を変えることなく使用に耐える物品をいう。

③ 清掃業務

- ・良好な衛生環境、美観の維持のため、施設内の清掃及び整理整頓を日常的、定期的に行う。
- ・ゴミ処理は、法律・条例等を遵守し、適切に行う。
- ・必要に応じて害虫駆除、窓ガラス清掃を行う。

④ その他

- ・科学体験講座に必要なイス、机、ホワイトボード等は、リース等により配置する。
- ・管理運営にあたっては、1日の業務内容や参加者数、特記事項等を記した日報を作成し、適正な業務管理を行う。求めに応じて県教育委員会に提出する。

(2) 科学体験講座の企画・運営業務

科学体験講座を企画・運営するため、以下の項目を実施する。

- ① 講師への講座の依頼や日程調整及び補助員の手配
- ② 講師との事前打合せや講座内容の確認
- ③ 講座に必要な材料や用具等の準備・調達
- ④ 講座参加者名簿の受付名簿及び連絡先名簿の作成
- ⑤ 講座参加者受付
- ⑥ 講座中の講師補助
- ⑦ 講座中の安全管理（安全管理マニュアルに従って行うこと）
- ⑧ アンケート調査の実施

(3) 科学体験講座実施業務

受託者は、以下の科学体験講座を企画し、実施する。なお、講座の内容及び講師情報については、県の「協育」ネットワーク担当者や、企業、大学及び県庁各部局等の講師情報の提供を受けるなど、県と連携して実施することができる。

【参考】

- ・別紙1「平成29年度 実施講座一覧」
- ・大分県商工労働部工業振興課発行「おおいたものづくり発見！ブック」
(<http://www.pref.oita.jp/site/science/book2017.html>)

① 0-Labo で実施する「科学体験講座」【年間45日を標準】

- ・開館期間中に、主に小学生を対象とした「科学体験講座」を実施する。
- ・「科学体験講座」では、科学教室やものづくり教室等、科学の原理や法則について学ぶことができる講座を実施する。
- ・参加者の募集は県と連携して行い、応募多数の場合は抽選により決定する。
- ・1講座の定員は16名を基本とする。
- ・0-Labo で実施する「科学体験講座」の講座時間は、1日2回90分間を基本とする。ただし、講座内容等によって、会場、講座時間及び1日の実施回数を変更することができる。

【講座日程例】 午前の部：10：30～12：00／午後の部：13：30～15：00

② 0-Labo で実施する「サイエンスラボ」【年間18日を標準】

- ・講座実施期間のうち18日間（任意に指定）は、土・日、祝日等の来館者を対象とした「サイエンスラボ」を実施する。
- ・「サイエンスラボ」では、科学の原理や法則を気軽に学ぶことができる実験や工作を提供する。
- ・「サイエンスラボ」の参加者の募集方法は、当日参加を基本とする。ただし、講座内容によ

っては、県教育委員会と協議をした上で、事前募集により参加者を募集することも可能とする。

③ 県内各地で実施する「0-Labo 出前講座」【18市町村において年間30日を標準】

- ・県内各地に科学体験活動を普及させるため、県内18市町村において「0-Labo 出前講座」を実施する。
- ・出前講座を希望する市町村及び団体等からの要望等に応じて、講座日程の調整及び講師の選定をし、講座実施に必要な職員を派遣する。ただし、0-Labo で会場及び講師を選定し、県内の各市町村で講座を実施することもできる。
- ・1回の講座時間は、90分を基本とする。

④ 企業や大学等を会場として実施する「企業・大学等訪問講座」【年間7日を標準】

- ・中学生以上の生徒を対象に、自己の将来の職業観につながる等、専門的な科学体験活動を提供するため、企業や大学等を会場とした「企業・大学等訪問講座」を7カ所において実施する。
- ・5月下旬をめどに講座を実施する企業、大学等を決定し、県と連携して参加者の募集を行う。
- ・講座時間は120分を基本とし、参加者は16人を基本として実施する。ただし、実施時間及び募集人数等については、依頼先と相談をし、柔軟に対応する。
- ・講座では、科学実験及び研究施設の見学等、多様な科学体験ができるように企画する。

(4) 科学や技術に関する常設展示及び図書コーナーの企画・運営業務

① 科学や技術に関する常設展示の実施

- ・講座実施期間中は、0-Labo 施設内に科学や技術に関するパネル等を掲示する。
- ・科学展示は内容を工夫し、来館者数の増加に努める。企画展示の内容は、年間3種類実施する。
- ・いつでも科学実験や工作を提供できるように、常に簡易な工作キットを準備し、来館者や幼稚園・小学校等の社会見学に対応する。

② 科学読み物等図書コーナーの設置

- ・大分県立図書館の団体貸出を利用して、科学読み物等の図書コーナーを設置する。
- ・常時100冊程度の科学や技術に関する図書や講座に関連する図書等を配架する。

(5) 広報及び情報発信業務

① 募集に向けた講座スケジュールの作成及び参加者の募集

- ・科学体験講座は、月毎のスケジュールを作成し、計画的に実施する。
- ・スケジュールの作成においては、分野、形式、依頼する団体等のバランスに配慮して、講座及び講師を公正公平に選定する。また、科学体験活動の普及・拡大の面から、新たな講師は優先的に選定する。
- ・講座の参加者が定員に達しない講座については、再募集を行い、定員に達するように努める。

② 広報及び情報発信の工夫

- ・ポスターやチラシ、スケジュール等を学校、公民館等へ配布するとともに、ホームページ等を活用して、講座参加者の募集、科学体験講座の内容及び0-Labo の活動等の広報及び情報発信を行う。
- ・講座内容や講座の様子等を広く県民に知らせるため、ホームページ等を適時更新する。
- ・「0-Labo 出前講座」や県の主催する研修会等を通して、科学体験活動のノウハウや0-Labo の取組について情報発信することにより、科学体験活動指導者の育成や科学体験活動の普及に努める。

(6) 調査業務

業務の実施にあたって、常に参加者等のニーズや満足度等について把握し、業務の改善等業務内容の充実を図る。

- ① 講座毎の参加者数及びホームページ閲覧回数について
 - ・ 講座毎の参加者数を記録する。
 - ・ ホームページの閲覧回数や更新状況等を月毎に記録する。
 - ・ 講座毎の参加者数及びホームページ閲覧回数は、翌月 10 日までに県教育委員会に報告する。
- ② アンケート等調査・分析について
 - ・ 科学体験施設に対する県民ニーズや利用者層、参加者等の満足度等について把握し、今後の検討に活用するため、講座後にアンケート調査を行う。
 - ・ アンケートの内容や実施方法については、県教育委員会と協議を行う。
 - ・ アンケートについては、以下の項目が調査できるように作成する。
 - ・ 参加者の状況（参加者延べ数及び実数、講座別、月別、分野別、講座形式別、居住地別、学校別、学年別、男女別、参加のきっかけ）
 - ・ 参加者の科学体験講座に対する満足度
 - ・ 参加者や保護者等のニーズ、要望、苦情
 - ・ 科学体験施設や科学体験活動等に対する参加者等の意識等
 - ・ リピーターの把握（参加者実数、回数別、学年別）
 - ・ 講座後のアンケートとは別に、講座参加者を対象として、科学や技術に対する興味や関心の変容等を調査するため、10月以降にアンケートを実施し、0-Labo における科学体験の効果等を分析する。また、本アンケート結果は、事業完了後に提出する実施報告書とともに提出する。
- ③ その他の報告項目について
 - ・ 上記以外に、次の項目について報告する。
 - ・ 「科学体験講座」の内容（写真、参加者の人数及び様子含む）及び成果と課題
 - ・ 「サイエンスラボ」の内容（写真、参加者の人数及び様子含む）及び成果と課題
 - ・ 「0-Labo 出前講座」の内容（写真、参加者の人数及び様子含む）及び成果と課題
 - ・ 「企業・大学等訪問講座」の内容（写真、参加者の人数及び様子含む）及び成果と課題
 - ・ 常設展示の内容（写真、来館者の人数及び様子含む）及び成果と課題

(7) 経理業務

上記(1)～(6)の業務に係る経理について処理する。

7 事業報告と委託金の支払い等

(1) 完了通知書及び実施報告書等

契約を締結した受託者は、事業完了後速やかに、次の①～④の書類を提出する。（契約の際に様式を提示する。）

- ① 完了通知書
- ② 労働契約書、賃金台帳、出勤簿、業務日誌等、勤務状態がわかる書類
- ③ 実施報告書
 - ・ 実施報告書は、6-(6)の調査業務において調査した内容についてまとめる。
 - ・ 実施報告書は完了通知書等とともに提出する。
 - ・ 分析にあたっては、平成29年度の実績も比較対象とする。

④ その他必要書類（講座で配布された資料、講座参加者名簿等）

(2) 委託金の請求及び支払い

- ・当課による完了検査に合格した場合は、委託金の請求を行う。なお、委託金の一定の範囲まで前金払いすることも可能だが、前金払い請求の内容については、契約書の中で取り決めることとする。

8 その他

(1) 講座の実施については、より多くの子どもに体験の機会を与えることができるよう合理的配慮を行う。

(2) 事業実施にあたり、疑義が生じた場合には、その都度、双方による協議を行う。

(3) 県教育委員会への報告については、文書及び電子ファイルにて行う。

(4) 受託者は、別紙2「自己評価指標」に基づき、目標を設定し、事業の達成状況について自己評価を行う。

	テーマ名	内容
1	体験しよう！超低温の世界	液体窒素を使って、-196℃の世界を体験する。
2	ドライアイスで遊ぼう！	ドライアイスの性質を使って、風船をふくらませたり、ロケットをつかって飛ばしたりする。
3	紙コップ相撲ロボット	モーターの仕組みを学びながら、紙コップロボットを作る。
4	押し花アートでかわいいネコのしおりを作ろう	四季折々の草花を押し花にして、かわいいネコのしおりを作る。
5	プランクトンの世界をのぞいてみよう！	顕微鏡で、プランクトンや微生物を観察し、生態系やその役割について考える。
6	ぷよぷよスライムで遊ぼう	ぐにゅぐにゅぷよぷよした不思議な感触のスライムを作る。
7	クレイアートのアイスメモスタンド	軽量樹脂粘土で、本物そっくりなアイスクリームのメモスタンドを作る。
8	アロマで虫よけスプレーを作ろう	アロマを使って虫よけスプレーやリラクセスプレーなどを作る。
9	科学捜査 犯人は誰だ	コップの謎、ペーパークロマトグラフィー、燃える脅迫状を分析して、メダカ誘拐事件の犯人を見つける。
10	iPadでパーチャル体験	iPadの便利な仕組みや機能を学習しながら、星空観察を体験する。
11	JAXAコズミックカレッジ 宇宙のひみつ～太陽系MAPを作ろう～	太陽系MAPを作って、宇宙の秘密を探る。
12	JAXAコズミックカレッジ 光る星の砂で星座盤を作ろう	星の砂を使って光る星座盤を作る。また、私たちが星の砂の不思議な関係を、実験を通して学習する。
13	JAXAコズミックカレッジ フィルムケースロケットを作ろう！	ロケットの仕組みを学習して、小型の「フィルムケースロケット」を作る。
14	イロトリドリに染めてみよう！	様々な植物から色を取り出した汁と、ばいせん液を毛糸に浸けて染色をする。
15	ダンボールクラフトでASIMOを作ろう	ダンボールでHondaの車やASIMO等を作成して、ものづくりを楽しむ。
16	顕微鏡を使って生物を観察しよう ミジンコvsヒドラ	顕微鏡を使ってミジンコとヒドラを観察する。
17	カニと遊ぼう！	カニは住む環境の違いによって形も食べ物も違う。カニの種類やオス・メスの見分け方等を学習する。
18	ニワトリの解剖	ニワトリの体を通じて、人間の体のしくみを考える。
19	ミクロのかがやき～電子顕微鏡の世界～	電子顕微鏡を使って、ミクロの世界をのぞいてみる。
20	公益財団法人日本科学協会出前講座 もしも地球が立方体だったら	立方体になった地球をもとに、私たちが住む地球について学ぶ。
21	おもちゃ作りのワークショップ	ストロー笛、紙皿の風車、紙コプターなどの手作りおもちゃを作る。
22	サイエンスショー&永遠に飛ぶ紙飛行機	かず先生のサイエンスショーと空飛ぶ種子の原理をまねた紙飛行機を作ります。
23	電気を作るしくみを知ろう！	手回し発電機や自転車発電機で電気を作る。さらに、実験してわかったことを確認できるライトを作る。
24	歯ブラシカーをつくろう	歯ブラシと振動モーターを使って、歯ブラシカーをつくる。
25	ミニ四駆の生産工場	参加者で協力して、ミニ四駆を作り、コースを走らせる。
26	アイロンビーズでコースター作り	加熱でくっつくアイロンビーズを使って、コースターを作る。
27	川の生き物を調べよう～水生生物による水質判定～	七瀬川に住む生物を採取して、川の水質調査をする。
28	お芝居やゲームを通してリサイクルを学ぼう	ゴミを山に捨てると将来の地球がどうなるのかを、ゲームを通して学ぶ。
29	電子工作にチャレンジ	電子部品のハンダ付けをして、LEDが付いたり消えたりするものを作る。
30	きれいな色のスライム・色が変わるスライムを作ろう	「ぷによ・ぷによ」「ぐにゅ・ぐにゅ」したきれいな色のスライムを作る。色が変わるスライム作りにも挑戦する。
31	木製小家具を作ろう	観葉植物やぬいぐるみを飾ることができる木製のミニチュアイスを作る。
32	石橋模型の組立てと測量体験	木製アーチを組み立てて耐震性を確認する実験を行う。また、自分の歩幅を計算して、商店街の測量を行う。
33	防災食を作ろう！	災害時に温かく栄養がある料理ができるよう、災害援助用炊飯袋やポリ袋を利用して、様々な料理を作る。
34	手作りカメラで写真を撮ろう	実際にモノクロ写真が撮れるカメラを作成する。レンズのしくみも学習する。
35	カラフルホットとケーキを作ろう	色が変わる不思議なホットケーキを作る。
36	わくわく環境教室 石油と未来のエネルギーについて	気体の実験や蒸留実験などを通して、石油や未来のエネルギーについて学習する。
37	実験と工作で知る物理の不思議	物理の実験や物理の原理で動く工作をする。
38	こねこねせっけんをつくろう	石けん粘土を使って、好きな形、好きな色の石けんのオブジェを作る。
39	ビュートレーサーでプログラミングをしてみよう	簡単なプログラミング体験を通して、ビュートレーサーを自分の思い通りに動かす。
40	唾液の働きと鼻腔内の細菌を調べてみよう	温度等の条件を変えながら、唾液のはたらきについて調べる実験をする。また、鼻の中の細菌を顕微鏡で観察する。
41	地球の中のマグマと水を見てみよう	地球の中のマグマと水が溶け合う様子をO-Laboで再現する。氷の分子模型作りも行う。
42	ピコピコカプセル&迷路を作ろう	生きているような不思議な動きをするピコピコカプセルを、自分で作った迷路で動かす。
43	空気の力	空気の力で空き缶をつぶしたり、ボーリングの球を持ち上げたりする実験を行う。
44	光の虹を見よう	紙コップで分光器を作る。

45	お風呂でシュワシュワ♪アロマバスボールを作ろう	重曹とアロマオイルで、シュワシュワはじけるアロマバスボール(入浴剤)を作る。
46	ピコピコキャタピラを作ろう	不思議で面白い動きをするおもちゃ「ピコピコキャタピラ」を作る。
47	えんぴつパペットを作ろう	軽量樹脂粘土で、鉛筆キャップにもなるパペットを作る。
48	ワイヤーアートでメッキの化学	銅のワイヤーを好きな形にして、亜鉛の溶液に浸けると銀色になり、さらにあぶると金色になる化学実験をする。
49	哺乳類の心臓と私たちの体	心臓の音を聞いたり、血圧を測ったりする体験を行う。また、いろいろな哺乳類の心臓の展示もする。
50	科学のびっくり箱！なぜなにレクチャー お魚ロボットを作ろう	お魚が水中で上手に動く仕組みを学んだあと、モーターで動くオリジナルロボットを製作する。最後に水中レースも行う。
51	レゴマインドストームでプログラミング体験	レゴ社マインドストームEV3というロボットを使ってのプログラミング体験を行う。
52	親子で楽しむ「おくすり実験室」	親子で薬のを知ることができる実験を行う。
53	おもしろ科学実験教室の時間	黒い線にそって進むLEDを使ったロボット実験や偏光板を使った実験など、いろいろな科学実験を行う。
54	大学の森を探検しよう！	様々な植物が観察できる大分大学構内の森で、落ち葉拾いや地層の観察を行う。
55	AMラジオを作ろう	AMラジオキットを使ってラジオを製作し、放送の受信を行う。
56	電気回路を利用してトーチを作ろう	電気回路を学んで、災害時などにも役立つLEDランプで照らすトーチを製作する。
57	ヒーリング万華鏡を作ろう	液体のりとビーズを使って、ヒーリング万華鏡を作る。
58	熱の伝わり方	ボトルの中に雲を作ったり、ヒートパイプで氷を切ったりする実験を行い、材料による熱の伝わり方の違いやヒートパイプの原理を学ぶ。
59	クリスマスキャンドルを作ろう	ガラスの器に、いろんな色のクリスマスキャンドルを作る。
60	ピカピカ泥だんごを作ろう	土を使って、ピカピカに光る泥だんごを作る。
61	船に親しむ海事体験講座	船の仕事の紹介やポンポン船工作、缶バッチ作りを行う。
62	手作りリップクリーム	アロマオイルを使って、手作りのリップクリームを作る。
63	スタンドグラスでストラップ作り	はんだごてを使って本格的なスタンドグラスのストラップを製作する。
64	LEDバッチ作り	電気回路が描けるAgloペンで、光るLEDバッチを作る。
65	飲む点滴「発酵ドリンク」を作ってみよう	飲む点滴として知られている栄養満点ドリンク「あまざけ」を作る。
66	ソニー・サイエンスプログラム ペットボトルと牛乳パックで作るヘッドフォン	ペットボトルと牛乳パックで本格的なヘッドフォンを製作する。また、音のなる仕組みを学ぶ。
67	目指せ！未来のドクター	実際に医療現場で使われる針と糸を使って、縫合体験や神経の観察、MRI実習体験を行う。
68	きみもサメ博士！	標本などを使って、サメの体の仕組みや暮らしについて学習する。
69	目指せ！未来の気象予報士	気象台の施設を使って、気象観測方法について学習する。
70	宇宙エレベーターロボットをプログラムで動かそう	地球と宇宙をつなぐ夢の輸送機関「宇宙エレベーター」について、レゴ社の教材でロボットを製作し、プログラミングを組んで昇降実験を行う。
71	焼酎メーカーの資源循環活動	「いいちこ」の副産物を利用した資源循環の取組について、工場見学を通じて学ぶ。
72	見えない巨人“微生物についてもっと知ろう”	発酵で活躍している微生物の観察や、手に付着している細菌の観察を行う。
73	ロボットのプログラミングを体験しよう	最新のロボット技術について、LEGOマインドストームEV3のロボットを動かしながら学ぶ。また、大分大学の研究室の見学も行う。
74	MESHでプログラミングを体験しよう	無線でつながるブロック形状の電子タグ(MESHタグ)と身の回りのものを組み合わせて、MESHにプログラミングを行うことにより、新しい仕組みの製品を作り出す。
75	医療におけるリハビリ体験	医療機関でリハビリ機材を使って、機能回復体験や医療現場の現状を学ぶ。

◇平成30年度「子ども科学体験推進事業」自己評価指標

別紙2

基本方針	取組	指標項目	単位	現状				目標
				H25	H26	H27	H28	H30
(1) 体験活動センターであるO-Laboは、より多くの子どもたちに実験や工作等様々な体験活動を提供します。	①年間100回以上の講座を実施します。	講座実施日数	日	108	101	107	103	
		延べ参加者数	人	3,464	4,092	3,952	4,693	
	・児童数	2,067		2,530	2,350	2,906		
	・保護者数	1,397		1,562	1,602	1,787		
	③参加者の実数の増加による参加者層の拡大を目指します。	実児童参加者数	人	867	1,249	1,176	1,183	
		・出前講座分		334	601	606	505	
	④科学体験活動の市町村への拡大を図ります。	出前講座実施回数	回	17	25	30	32	
		実施市町村数	市町村	10	9	8	18	
(2) 人材ネットワークセンターであるO-Laboは、大学や企業、学校、NPO、団体、ボランティア等と幅広く連携・協働します。	①協力講師数(団体等含む)の増加を目指します。	協力講師・団体数	人・団体	45	48	46	51	
	②新規講師(前年度未実施)の獲得を図ります。	新規講師数	人・団体	17	12	7	16	
(3) 情報センターであるO-Laboは、科学体験活動を広く周知し、児童生徒及び県民へ普及啓発します。	①HP・ブログの更新回数の増加を目指します。	HP・ブログ更新回数(概ね)	回	(44)	150	175	197	
	②ホームページの充実により、HP閲覧件数の増加を目指します。	HP閲覧件数	件	—	49,782	51,595	78,147	
(4) 調査センターであるO-Laboは、科学体験講座の運営や参加者の感想等について調査し、取組の改善に努めます。	○適正な調査のため、アンケート回収件数の増加を目指します。	アンケート回収件数	件	3,029	3,730	2,340	2,509	
		・講座アンケート(児童のみ)		1,934	2,481	2,249	2,267	
		・10月以降アンケート(科学や技術に対する興味・関心の変化について)		—	—	91	86	
		・保護者アンケート		1,095	1,249	—	156	